聖教ワイド文庫

池田大作

法華経の智慧 1

二十一世紀の宗教を語る

聖教ワイド文庫――――――――――001

池田大作

法華経の智慧 1

二十一世紀の宗教を語る

聖教新聞社

池田大作（いけだ・だいさく）

昭和3年（1928年）、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。世界各国の識者と知性の対話を重ね、平和、文化、教育運動を推進。モスクワ大学、グラスゴー大学、北京大学など、世界の大学・学術機関の名誉博士・名誉教授、世界の各都市の名誉市民の称号、国連平和賞をはじめ、「桂冠詩人」の称号など多数受賞。

著書は『人間革命』（全12巻）、『新・人間革命』（現20巻）、『私の世界交友録』など。対談集も『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『人間革命と人間の条件』（A・マルロー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・ゴルバチョフ）、『地球対談　輝く女性の世紀へ』（H・ヘンダーソン）など多数。

聖教ワイド文庫——001

法華経の智慧 1
二十一世紀の宗教を語る

発行日　二〇〇一年十一月十八日
第三刷　二〇一〇年二月十五日

著者　池田大作
発行者　松岡資
発行所　聖教新聞社
〒160-0022　東京都新宿区信濃町一八
電話〇三—三三五三—六一一一（大代表）

印刷・製本　大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします
©2001 D. Ikeda THE SEIKYO SHIMBUN
Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります
ISBN978-4-412-01174-8

目　次

「哲学不在の時代」を超えて……7
生命がキーワードの時代へ……28
民衆に呼びかける経典……54
序　品①　如是我聞――師弟不二の鼓動……75
序　品②　二処三会――〝永遠〟と〝今〟との交流……98
方便品①　方便――巧みなる「人間教育」の芸術……126
方便品②　開三顕一――「師弟の道」から「師弟不二の道」へ……155
方便品③　「諸法実相」の心――現実変革への限りなき挑戦……184
方便品④　かけがえのない個々の生命……215
索引（語句索引、御書引用索引、法華経引用索引）

聖教ワイド文庫——001

池田大作

法華経の智慧 1

二十一世紀の宗教を語る

聖教新聞社

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

目　次

「哲学不在の時代」を超えて……7
生命がキーワードの時代へ……28
民衆に呼びかける経典……54
序　品①　如是我聞――師弟不二の鼓動……75
序　品②　二処三会――〝永遠〟と〝今〟との交流……98
方便品①　方便――巧みなる「人間教育」の芸術……126
方便品②　開三顕一――「師弟の道」から「師弟不二の道」へ……155
方便品③　「諸法実相」の心――現実変革への限りなき挑戦……184
方便品④　かけがえのない個々の生命……215
索引（語句索引、御書引用索引、法華経引用索引）

凡例

一、本書は、大白蓮華連載の「法華経の智慧」（一九九五年二月号～十月号）九回分をまとめた単行本を、「法華経の智慧[1]」として聖教ワイド文庫に収録したものである。

二、御書のページ数は「新編日蓮大聖人御書全集」（日亨上人編　創価学会発行）による。

三、法華経のページ数は「法華経並開結」による。

四、文中、説明が必要と思われる語句には、＊印をつけ、説明を付した。

五、肩書、役職等については、掲載時のままにした。

六、巻末に、語句索引と御書、法華経からの引用文の索引を付した。

出席者

斉藤（さいとう）　克司（かつじ）　教学部長　副会長　東京都出身
東京大学文学部卒　昭和三十二年入会

遠藤（えんどう）　孝紀（たかのり）　副教学部長　山形県出身
慶応大学大学院修士課程修了　昭和三十年入会

須田（すだ）　晴夫（はるお）　副教学部長　東京都出身
東京大学法学部卒　昭和三十八年入会

法華経の智慧 1

二十一世紀の宗教を語る

「哲学不在の時代」を超えて

（大白蓮華一九九五年二月号掲載）

斉藤　「法華経の智慧――二十一世紀の宗教を語る」と題して、池田先生に、多角的に語っていただくことになりました。

法華経が現代に送る光、豊かな智慧の大海を、私たちも学んでまいりたいと思います。

特に、この内容は、新入会の方々や、海外のメンバーも含めて、仏法に関する理解を深めていただけるものになればと願っております。

よろしく、お願いいたします。

池田名誉会長　こちらこそ、よろしく。

いよいよ、本格的に「二十一世紀の宗教」を語るべき時代に入りました。今、人類は共産主義崩壊、哲学不在の時代の彼方の山に目を向けながら、新しい大哲学を求めている。

つまり、精神の空虚を充実で満たしてくれる何かを求めている。疲れた生命を、はつらつ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

と希望に蘇らせてくれる何かを求めています。

自分が、また社会が「どこへ」「何のために」進めばよいのか。それを教えてくれる智慧を求めている。

あるいは、戦乱の旧ユーゴ諸国で。

あるいは、飽食の先進国の社会で。

あるいは、混乱の旧・社会主義国で。

あるいは、貧困と戦う第三世界で。

「経済の成長」を至上命令に七てきた現代にあって、より大切なのは、『人間』が根本」、つまり「人間の成長」ではないのかと気づき始めています。

「知識の飛躍的増加」が進む情報社会にあって、知識を使いこなすための「智慧の飛躍的増大」が、至急になされなければならないと理解されつつある。

何かが間違っている。何かが必要だ。科学でも幸福はない。社会主義でも資本主義でも救われない。どんなに会議を開いても、道徳を訴えても、心理学を講じ、哲学を論じても、何かが欠けている。

今、人類の心の情景は、このようなものではないでしょうか。

『星の王子さま』で知られるサン＝テグジュペリは言っています。

「われわれがどこかで道をあやまったということを理解しなければいけない。人間全体は以前よりも豊かになっている。よりおおくの富と時間を享受している。だがしかし、うまく規定できぬ本質的ななにものかが欠けているのだ。自分を人間として感じることがしだいに稀になっていく。われわれの神秘的な大権のうち、なにかがなくなってしまったのだ」（『人生に意味を』、渡辺一民訳、みすず書房）

人間は「道をあやまった」というのだ。

人間は「どこへ」「何のために」――。

法華経の従地涌出品（第十五章）では、無数の地涌の菩薩が大地から涌出してきたときに、弥勒菩薩が質問します。

「是れ何れの所より来れる　何の因縁を以ってか集れる」（法華経並開結。以下、法華経と表記。四八〇ページ）

その場にいた人々の疑問を代表した質問ですが、地涌の菩薩は「どこから」「何ゆえに」集まって来たのかと聞いたのです。

斉藤　その問いについて、釈尊は〝よくぞ、このような「大事」を問うた〟と弥勒を称え

ています。そして、この問いへの答えとして、如来寿量品（第十六章）という法華経の最重要の法門が説かれています。

名誉会長　本当に重要な問いです。その法門上の深義は、いずれ論ずるとして、敷衍していえば、人間は「どこから」、そして「何のために」この世に生まれたのか、という問いにも通じるのではないだろうか。

遠藤　池田先生が、学会の座談会に初めて出席された時の模様が、小説『人間革命』には描かれていますが、戸田先生の前で詠まれた即興詩を思い出します。

そこには

「旅びとよ／いづこより来り／いづこへ往かんとするか
月は沈みぬ／日　いまだ昇らず
夜明け前の混沌に／光　もとめて／われ　進みゆく
心の　暗雲をはらわんと／嵐に動かぬ大樹を求めて
われ　地より湧き出でんとするか」

とあります。

名誉会長　戦後の動乱期を生きる青年として、人生の意義を、私は切実に求めていた。

そして私は、戸田先生と出会い、軍国主義に反対して投獄された人物ならば信用できる、と直感したのです。戸田先生との出会いが、私にとっての法華経との出あいになりました。

人は「どこから」そして「どこへ」「何のために」――この問いに答えることこそ、人間としての、一切の営みの出発点となるはずです。

須田　それに明快に答える思想・哲学・宗教は、どこにあるのか――これが課題ですね。社会が戦争で「焦土」であっても、心に「哲学」が生きていれば、未来は明るい。

それを池田先生は証明されたと、私には思えます。

斉藤　それが法華経の哲理でもありますね。

須田　しかし、社会が豊かであっても、心が「焦土」であっては、未来は暗い――。

名誉会長　その通りだ。それで思い出したのだが、現代人の心象を「心のなかが爆撃を受けた」と表現した人がいます。

ナチスの強制収容所の体験で有名なフランクル博士です。

遠藤　『夜と霧』（原題「強制収容所における一心理学者の体験」）の著者として高名ですね。

名誉会長　博士は「現代は、あらゆる熱情が乱用されたあげく、ありとあらゆる理想主義が打ち砕かれた時代なのです。じっさい、ほんとうなら、若い世代にもっとも理想主義と熱

情を求めなければならないのに、こんにちの世代、こんにちの青年には、もはやどのような理想像もないのです」（V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』、山田邦男・松田美佳訳、春秋社）と語られています。

「生きる意味」を失ってしまった、というのだ。

遠藤　強制収容所は、それこそ「人間の尊厳」も「生きる意味」も破壊し尽くされるような環境であった。それでも、「人間」として生き抜いた人もいたのですが――。

博士は、平和の時代になっても、別の意味で、目に見えない強制収容所が人類を取り巻いているのではないかと、示唆されているのでしょうか。

名誉会長　そうとも言えるだろう。

また、現代を支配している気分を一口で言うと、それは「無力感」だと言った人もいる。

ともあれ、だれもが、このままではいけないと思っている。しかし、政治も経済も環境の問題も、すべて自分の手の届かないところで決定され、動かされている。自分一人が何かしたところで、大きな機構の前に何ができようか――この「無力感」が、更に事態を悪化させる悪循環をもたらしているのです。

この無力感の対極にあるのが、法華経の一念三千の哲学であり、実践なのです。

一人の人間の「一念」が一切を変えていくというのですから、一人の人間の可能性と尊貴さを、極限まで教えた思想とも言えるでしょう。

斉藤 人間は、無力で哀れな存在ではないことを強調しなければなりません。池田先生と親交のあるロシアのヤコブレフ氏は「ペレストロイカの設計者」と言われる方ですが、「ロシアに明日はあるか」を展望されて、こう言われています。

「今日、最もクールな科学的合理主義ですらも、人間一人一人の価値を認めない限り、人類そのものが破滅するということを我々に教えている」（A・ヤコブレフ『歴史の幻影』、月出皎司訳、日本経済新聞社）と。

名誉会長 ヤコブレフ氏とは、昨年（一九九四年）も、モスクワでお会いしました。

〈「レオナルド国際賞」の受賞式で。ヤコブレフ氏は「池田博士！　我が国も、池田博士の行動に見習って、人道的な、また〝社会に尽くしていこう〟とする広範な動きが、そのような人々が登場してきています」とあいさつした〉

氏は、真剣に「ロシアのルネサンス」を求めておられる。その核心にあるのは、「人間的価値の復権」です。

「二〇世紀の残りの数年は、我々が一九世紀半ば以来知っている共産主義の幻想が完璧に

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb